市指定
無形文化財

鹿北茶山唄

かほくちゃやまうた

無形―1

所在地
鹿北町岳間

地図
P.139 118

単調な仕事にうるおいをもたせ、にぎやかに楽しく働くための作業唄として歌われた民謡です。

唄は三つの組曲で、全国的に珍しい構成です。昭和四十四年十二月に保存会が発足。昭和四十七年藤間豊太郎師匠に、踊りの振付を依頼して、現在も歌い踊られています。（中満）

市指定
有形民俗

大宮神社猿田彦石碑群

おおみやじんじゃ さるたひこせきひぐん

有民―1

所在地
山鹿大宮神社

地図
P.141 119

神社境内裏手の石垣上に四十七基が、整然と並んでいます。

古いものは享保十八（一七三三）年、新しいものは明治三十二（一八九九）年で、大部分が凝灰岩（ぎょうかいがん）製です。このうち八基は一八〇（センチ）を超えた大型のものです。

多くの石碑台石に、寄進者名が刻まれています。（児玉）

市指定
有形民俗

日輪寺芭蕉碑

にちりんじばしょうひ

有民―2

所在地
杉
日輪寺

地図
P.141 120

松尾芭蕉の句碑で、正面に「己が火を木々の螢や花の宿」、その下に「芭蕉翁」と肉太に彫ってあります。裏面に施主の俳人風斜（ふうしゃ）（本名山下甚左衛門）の名と明和三（一七六六）年に建立の志を遂げた喜びが彫りこまれています。（橋本）

市指定
有形民俗

来民団扇製作工具一式

くたみうちわせいさくこうぐいっしき

有民―3

所在地
方保田
出土文化財管理センター

地図
P.141 121

鹿本町来民は、京都、丸亀とともにうちわ三大産地として名を馳せ、県の産業としても重要視されてきました。

うちわ製作に使用される裁断具や糊つけ用のヘラなどの工具類一式が指定されています。

（大墨）

市指定
無形民俗

宗方万行

むなかたまんぎょう

無民―1

所在地
宗方

地図
P.141 122

江戸時代の元禄年間（十七世紀末ごろ）に、旅の僧願誉（がんよ）が来て、この雨乞い踊りを村人に教えたといいます。太鼓・ドラ・笛・鐘を手に持ち、囃子言葉に合わせ、愉快な仕草で踊ります。

現在は宗方の有志約二〇名が保存会を結成して八幡宮で練習し、地域のお祭りに出演しています。（児玉）

市指定
無形民俗

小坂雨乞い踊り

おさかあまごいおどり

無民―2

所在地
小坂

地図
P.139 123

標高六四八㍍の西岳山頂から谷水となって流れ出る川久保に諏訪明神（かんぱつ）を祀り、旱魃時の降雨を祈願した、室町の世から続く踊りです。

ひょうたんと団扇を手にし、野良着のまま走りこんで踊りまくる、単純ですが力強い踊りです。近隣の熱心な信仰に支えられています。（橋本）

市指定
無形民俗

なれなれなすび踊り

なれなれなすびおどり

無民―3

所在地
長坂
厳島神社

地図
P.141 124

この踊りは、今から約二〇〇年前から踊り継がれています。踊りは、踊り手、太鼓、歌の全てを男性が担当します。踊りの主役は若者で、麻の狩衣を付け、編み笠を二つ折りにしてかぶって登場し、「みんみら三つよさ」の歌で跳ねて踊ります。毎年三月九日に近い土曜日の夜に奉納されます。（池上）

市指定
無形民俗

山鹿灯籠

やまがとうろう

無民―4

所在地
山鹿

地図
P.141 125

千人灯籠踊り

宮造り

上がり灯籠

大宮神社灯籠殿

灯籠師たちの匠（たくみ）の技により、和紙と糊だけで、お宮、座敷、鳥籠、矢壷、金灯籠など多彩な品々が作られます。毎年八月十六日の夜大宮神社に、町内から三〇近い灯籠が奉納され（上がり灯籠）、灯籠殿内に保管されます。そして一年後、新しい灯籠が奉納され入れ替わります。昭和三十年代からは、千人灯籠踊りも始まりました。（児玉）

市指定
無形民俗

犬子ひょうたん

いんごひょうたん

無民―5

所在地
山鹿
大宮神社

地図
P.141 126

犬子ひょうたんは竹串に赤や青、緑、黄色に彩色した米の粉を練って作った子犬に、ひょうたんを抱えさせた縁起物です。

毎年六月十五日、八坂神社祭礼の「祇園さん」で、参拝者は境内内外で売っている「犬子ひょうたん」を、魔除けとして買って帰り、神棚などに一年間供えます。縁起物には、竜もあります。（児玉）

市指定
無形民俗

川北雨乞い踊り

かわきたあまごいおどり

無民―6

所在地
鹿本町
中川 川北

地図
P.140 127

写真提供　安武幸孝氏

室町時代の大旱魃の時に、中川八幡宮の社人から伝えられた神事より派生したものと伝えられています。

踊りは、男女組んでの道行き踊りとなっています。囃子は、三味線と大太鼓ですが、昔は笛もあったそうです。（隈部）